

大地震が起きたら市街地は大規模火災に？ 茅ヶ崎市のクラスターは県内最大規模

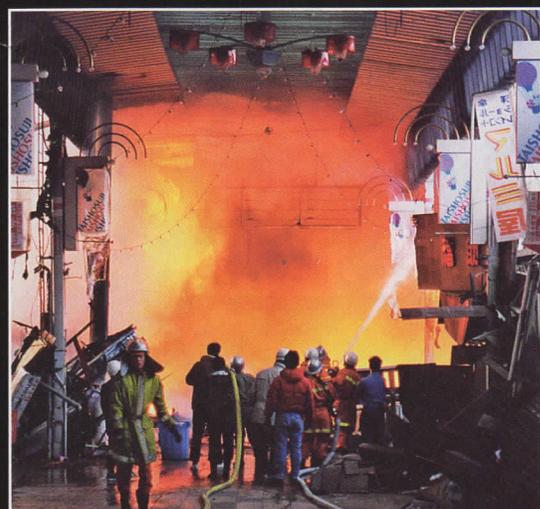
茅ヶ崎市は1件の火災から大規模な火災に発展する危険性が高い都市構造だということが、平成20年度に市が実施した「地震による地域危険度測定調査」により分かりました。また、県の地震被害想定でも、火災により甚大な被害が見込まれています。

今回の市政情報紙では、地震火災から命を守る方法を考えます。



道路が狭いと消防車も入りにくい

なぜ大地震が起けると火災による被害が大きいと予想されるのでしょうか
木造家屋が密集し、狭い道路が多く火災が焼け止まらず広がる都市構造
茅ヶ崎市では、木造家屋が密集しており、道幅の狭い道路が多いため、地震によりひとたび火災が起けると、火を消し止めることができなければ、火元の家屋から周辺の家屋へ次々と火災が延焼拡大し、燃え広がってしまいます。このような延焼する危険性を「クラスター（延焼運命共同体）」という言葉で表しています。



阪神・淡路大震災での火災の様子

クラスター（延焼運命共同体）
クラスターとは、延焼被害が起きた場合、運命を共にする建築群のことをいい、クラスター内の建物から1件でも出火しそのまま放置した場合、クラスター内の建物全てが焼失する単位のことをいいます。JR東海道線より南側の巨大なクラスターは**県内最大規模**となります。
(P3 クラスター分布図参照)

《風向：北東 風速6mの気象条件で火災が起きた場合のシミュレーション》

1棟の火災を放置するとあっという間に広がってしまう



消防研究センター提供「延焼シミュレーションソフト」より作成